

## 15. 地球環境

### (1) 「コアジサシ」の認知度

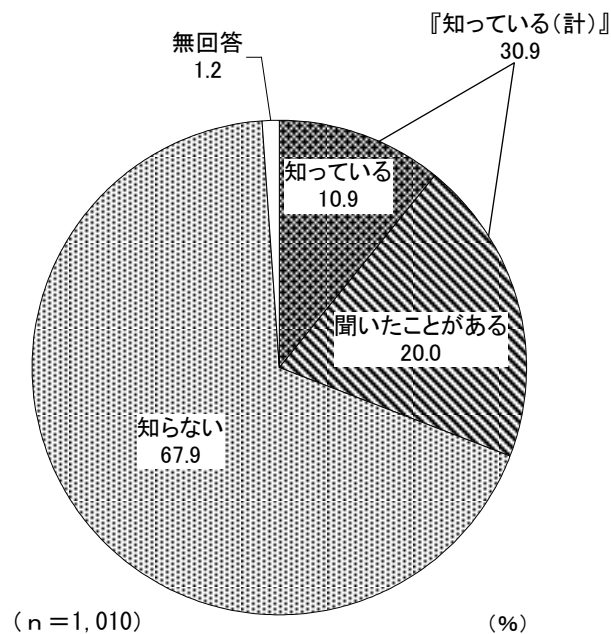
◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は約3割

問25 平成29年3月に策定した「大田区環境基本計画(後期)」の基本目標のひとつとして、「自然共生社会の構築(大田区生物多様性地域戦略)」を掲げ、取組を進めています。

(1) 生物多様性の保全における取組として、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」の営巣地整備作業をNPOと一緒にを行っています。あなたは「コアジサシ」をご存知ですか。(〇は1つだけ)

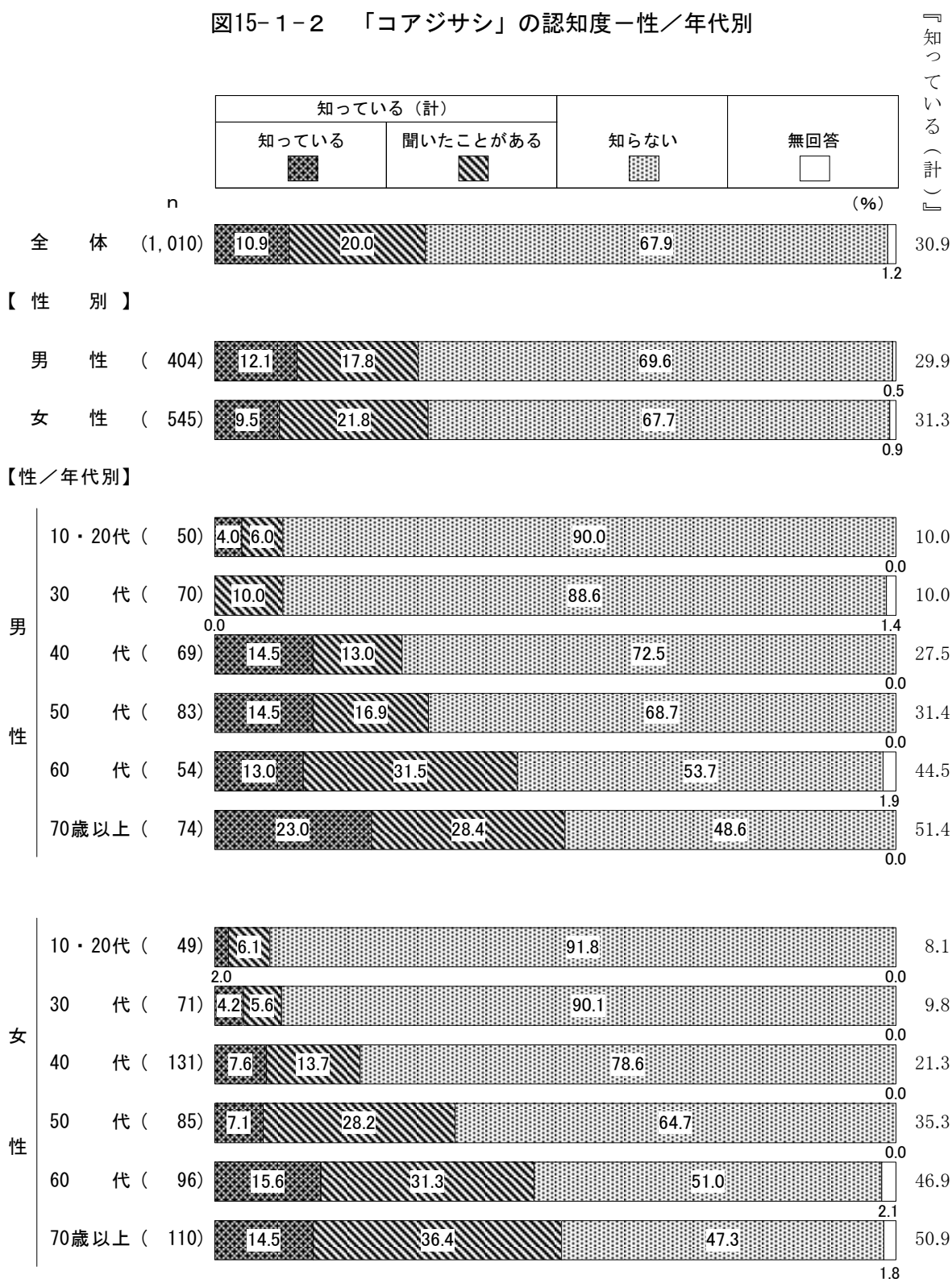
※「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリストでは絶滅危惧種に指定されています。

図15-1-1



「コアジサシ」を知っているか聞いたところ、「知っている」(10.9%)と「聞いたことがある」(20.0%)を合わせた『知っている(計)』(30.9%)は約3割となっている。一方、「知らない」(67.9%)は7割近くとなっている。(図15-1-1)

図15-1-2 「コアジサシ」の認知度－性／年代別



性別でみると、「聞いたことがある」は女性 (21.8%) が男性 (17.8%) より4.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『知っている (計)』は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上 (51.4%) と女性70歳以上 (50.9%) で5割台となっている。一方、「知らない」は女性10・20代 (91.8%) と女性30代 (90.1%)、男性10・20代 (90.0%) で9割台と高くなっている。(図15-1-2)

(2) 「アオスジアゲハ」を見たことがあるか

◇ 「見たことがある」が約2割

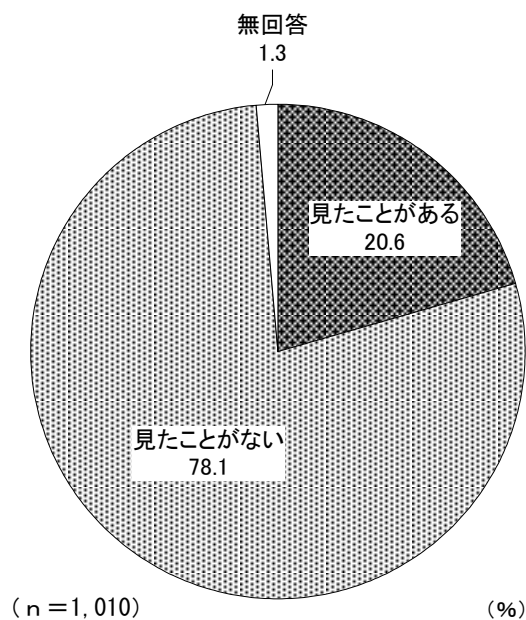
問25 平成29年3月に策定した「大田区環境基本計画(後期)」の基本目標のひとつとして、「自然共生社会の構築(大田区生物多様性地域戦略)」を掲げ、取組を進めています。

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアオスジアゲハをシンボルとした「おもてなしのまちづくり」としてバタフライガーデンやバタフライコーナーなどの整備を進めています。あなたは「アオスジアゲハ」を見たことがありますか。

(○は1つだけ)

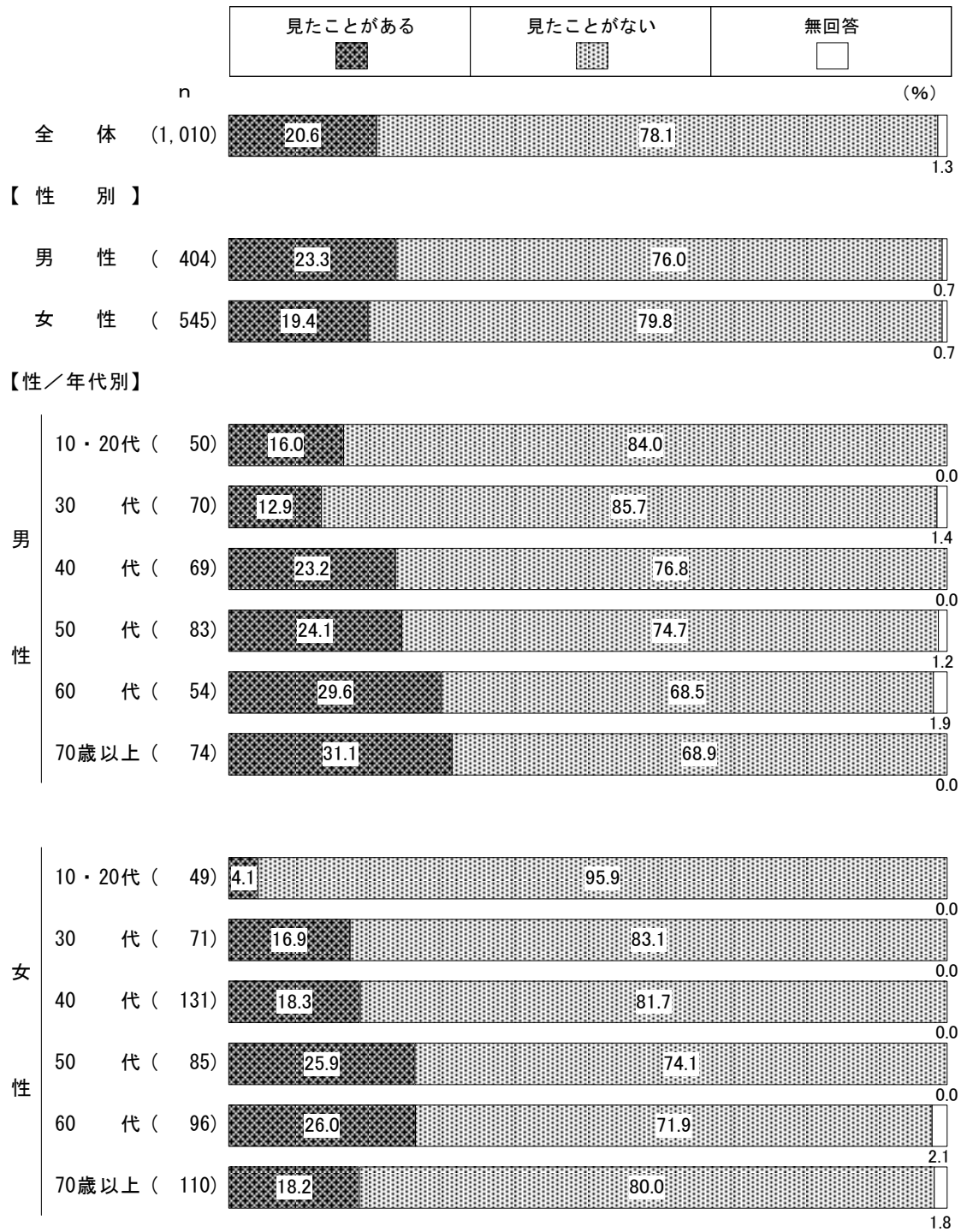
※ 「アオスジアゲハ」とは、黒地に青白い筋が入ったアゲハチョウ科に分類されるチョウの一種で、成虫の大きさは4cm前後です。幼虫が区の木「クスノキ」の葉を食べることが知られています。

図15-2-1



「アオスジアゲハ」を見たことがあるか聞いたところ、「見たことがある」(20.6%)は約2割、「見たことがない」(78.1%)が8割近くとなっている。(図15-2-1)

図15-2-2 「アオスジアゲハ」を見たことがあるかー性／年代別



性別で見ると、「見たことがある」は男性（23.3%）が女性（19.4%）より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「見たことがある」は男性70歳以上（31.1%）で3割を超えて高くなっている。一方、「見たことがない」は女性10・20代（95.9%）で9割半ばと高くなっている。

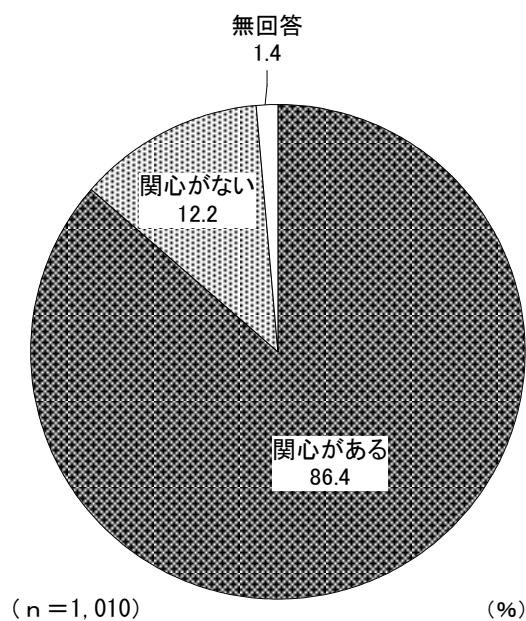
(図15-2-2)

### (3) 地球温暖化防止への関心度

◇「関心がある」が8割半ば

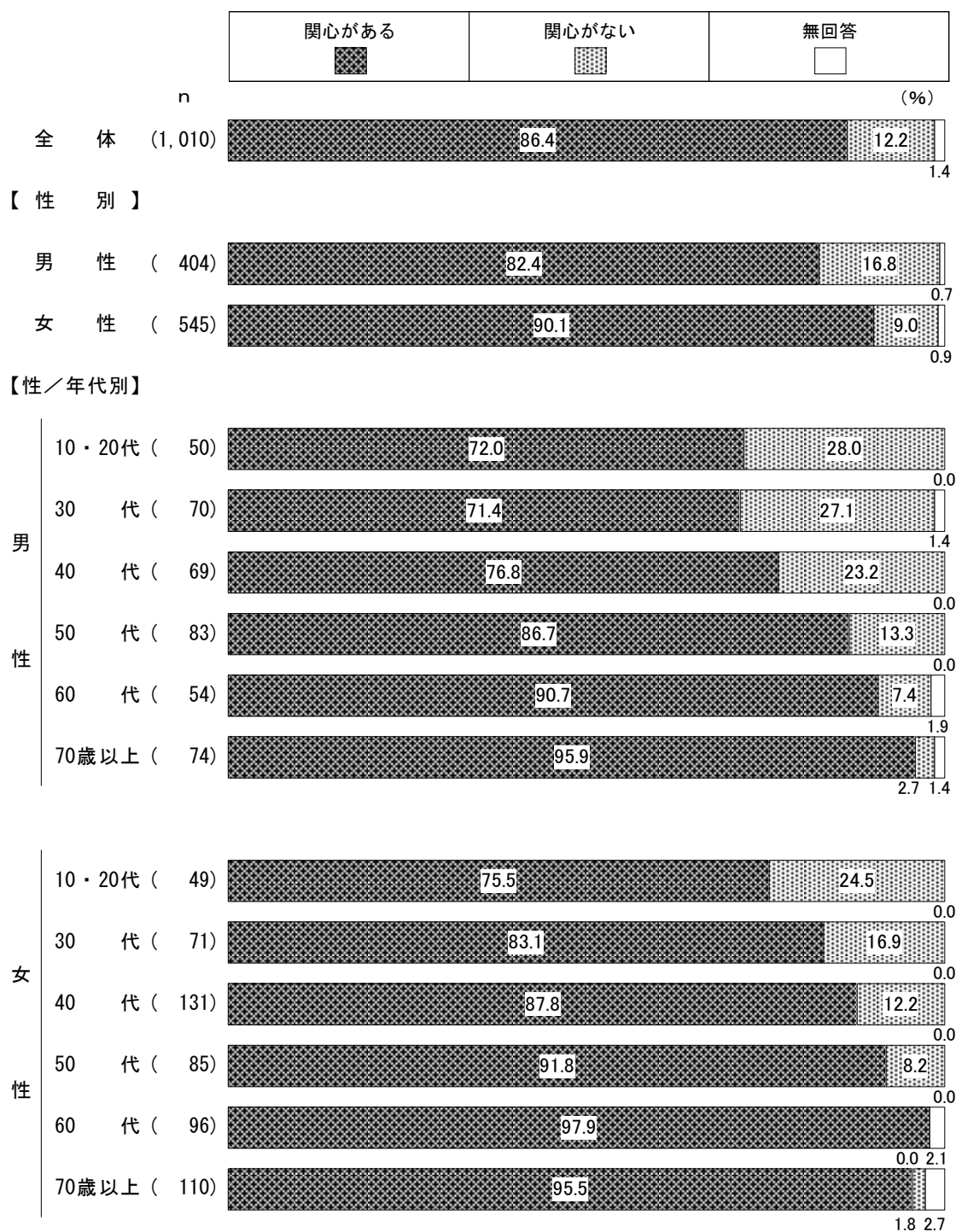
問26 あなたは、地球温暖化防止に関心がありますか。(○は1つだけ)

図15-3-1



地球温暖化防止に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(86.4%)が8割半ば、「関心がない」(12.2%)は1割を超えている。(図15-3-1)

図15-3-2 地球温暖化防止への関心度－性／年代別



性別で見ると、「関心がある」は女性（90.1%）が男性（82.4%）より7.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「関心がある」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性60代（97.9%）で10割近くとなっている。一方、「関心がない」は男性10・20代（28.0%）と男性30代（27.1%）で3割近くと高くなっている。（図15-3-2）

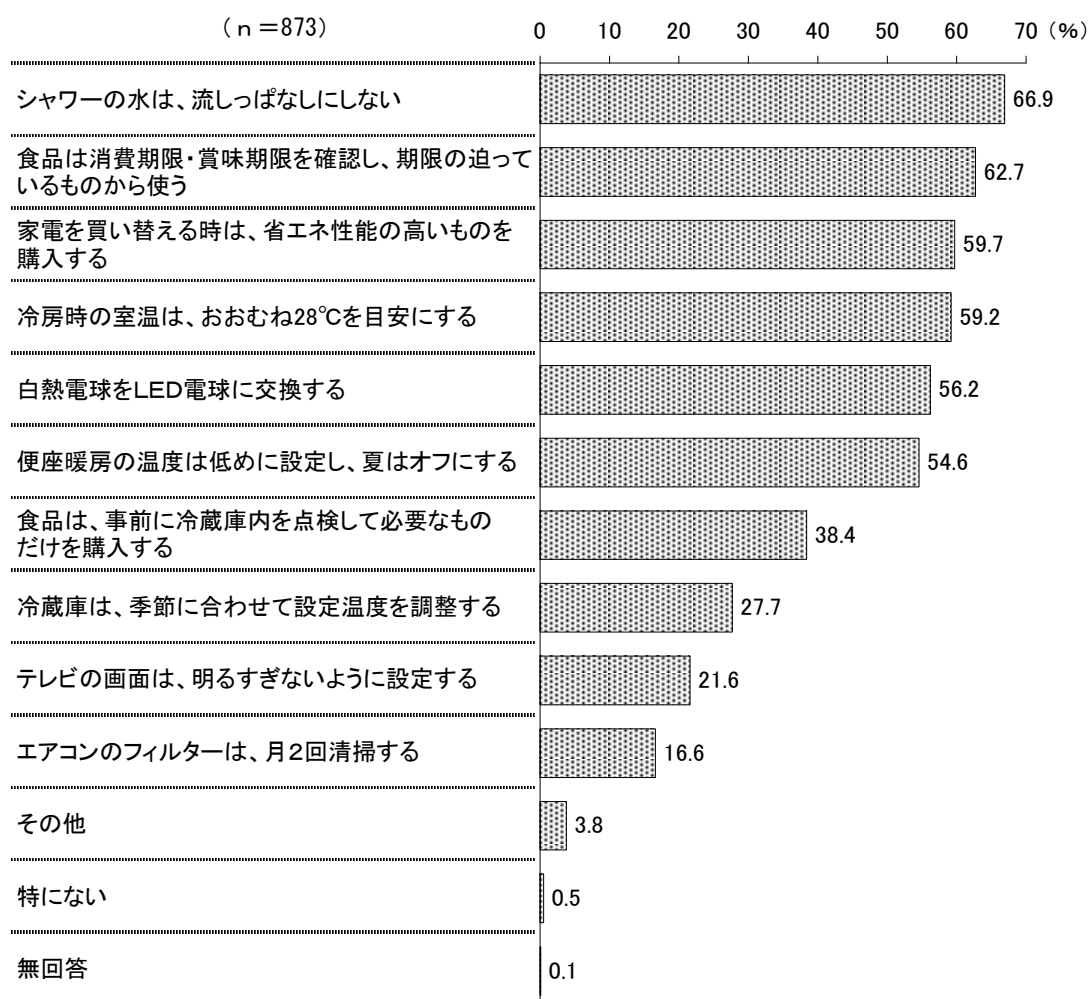
#### (4) 家庭で取り組んでいる省エネ行動

◇「シャワーの水は、流しっぱなしにしない」が7割近く

(問 26 で、「関心がある」と回答した方に)

問 26-1 地球温暖化を防止するためには「省エネルギー型の行動様式への転換」が必要です。  
あなたが、ご家庭で取り組んでいる省エネ行動は何ですか。(〇はいくつでも)

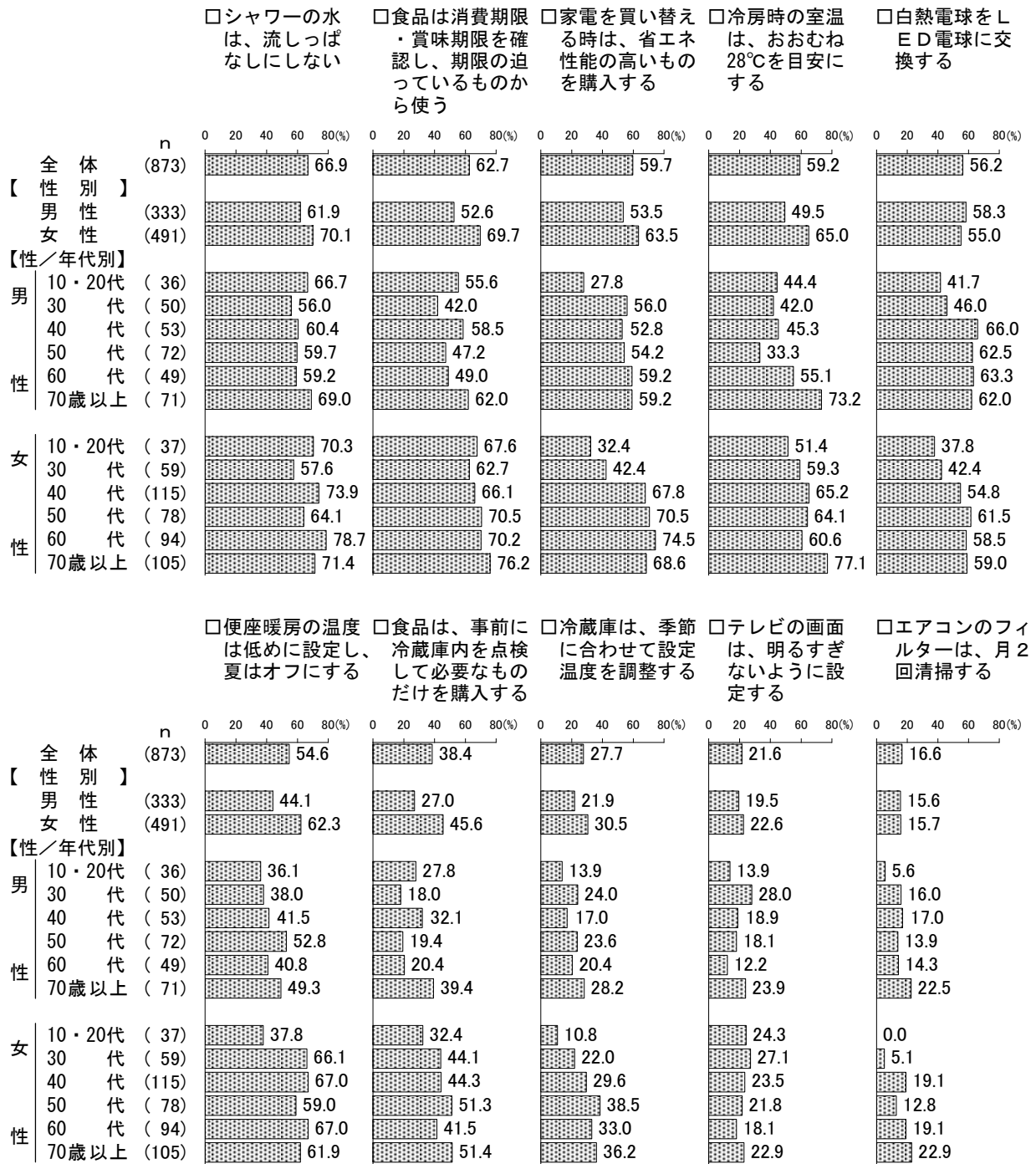
図 15-4-1



地球温暖化防止に「関心がある」と答えた人(873人)に、家庭で取り組んでいる省エネ行動を聞いたところ、「シャワーの水は、流しっぱなしにしない」(66.9%)が7割近くで最も高く、次いで「食品は消費期限・賞味期限を確認し、期限の迫っているものから使う」(62.7%)、「家電を買い替える時は、省エネ性能の高いものを購入する」(59.7%)、「冷房時の室温は、おおむね28℃を目安にする」(59.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「エアコンはなるべく使用しない」、「電気をこまめに消す」、「ゴミ削減のためにエコバックを使用」などがあげられている。(図 15-4-1)

図 15-4-2 家庭で取り組んでいる省エネ行動一性／年代別



性別でみると、多くの項目で女性が男性を上回っており、「食品は、事前に冷蔵庫内を点検して必要なものだけを購入する」は女性（45.6%）が男性（27.0%）より18.6ポイント高く、「便座暖房の温度は低めに設定し、夏はオフにする」は女性（62.3%）が男性（44.1%）より18.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「シャワーの水は、流しっぱなしにしない」は女性60代（78.7%）で8割近くと高くなっている。「食品は消費期限・賞味期限を確認し、期限の迫っているものから使う」は女性70歳以上（76.2%）で7割半ばと高く、「冷房時の室温は、おおむね28℃を目安にする」は女性70歳以上（77.1%）と男性70歳以上（73.2%）で7割台と高くなっている。（図15-4-2）